［特集Ⅱ］

2．岡山市立岡山後楽館中・高等学校学校訪問報告

附属学校　藤田高弘・湯沢秀文

はじめに
1　学校の概要
2　学校の特色
3　まとめと展望　―教育課程を中心に―

はじめに

附属学校では、中高一貫教育のありかたについて、さまざまな角度から検討を続けている。新たに独自の中等教育実践に取り組む学校を直接訪れて、その取り組みをつぶさに知ることができれば、それを自らの実践に大いに参考になる。私たちは、中高一貫教育の研究開発調査の一環として、平成12年３月12日に、岡山後楽館中・高等学校を公式に訪問する機会を得た。以下はその報告である。

1　学校の概要

a　設置の背景：併設型中高一貫への発展的な統廃合

岡山市立岡山後楽館中・高等学校は、岡山市立工業高等学校と岡山市立商業高等学校の二つの定時制高等学校の発展的な統廃合を目指して、新たに中等部を備えた３部制の単位制総合学科高等学校として平成11年１月１日に設置された。設置の背景には、高校進学率の上昇にともなう勤労少年の減少等による定時制高等学校の質的変化、募集定員割れの恒常化という問題があった。このような10年越しの岡山市立高等学校改革論議が進むなか、中央教育審議会が打ち出した中高一貫教育に着目しながら、岡山市立高等学校将来構想策定委員会を中心に併設型中高一貫教育へのあり方を研究、検討し、併設型中高一貫学校の設置の運びとなった。

b　設置の経緯

併設型中高一貫学校の設置へと発展する前段階には、平成４年には岡山市立高等学校検討委員会が「自分で作る高校生活」を基本理念に１）定時制課程の単位制高等学校、２）前期・後期の二学期制、３）普通・情報・福祉のコース制を要旨とした構想を打ち出していた。さらに、平成９年には、岡山市立高等学校将来構想策定委員会が、前述の委員会の基本理念を継承し１）３部制定時制課程総合学科、２）前期・後期の二学期制、３）中高一貫教育の研究、導入の検討、調査を要旨とした構想で市内中心部を設置場所とし、平成11年度の開校を目指して発展させた。このような設置までの流れをふまえ、平成11年４月、高等部に昼夜開講型３部制総合学科に中学校を併設し、いわゆる併設型の中高一貫学校として開校することになった。

2　学校の特色

a　入試方法（中等部、高等部）

入学者を決める機会を中等部では「選考会」とよび、高等部では「セレクション」と呼んでいる。高等部の募集人員は１学年２学級で定員は80名である。岡山市内に在住する小学生卒業予定者を対象に、「選考会」では面接、作文及び調査書で入学者を決定する。ただし、入学候補者が定員を超える場合は公開抽選により入学者を決定する。また、募集定員の10％以内で不登校の児童を受け入れることとしている。高等部の募集人員は同校の中等部からの入学者は80名、岡山県内の中学校から80名となっている。さらに、昼夜開講型の３部制をとっているので午前部80名、午後部40名、夜間部40名という定員枠を設けている。さらに、高等部の「セレクション」は３期に分かれている。１期は中学校長の推薦で定員の50％以内、２期は自己推薦で１期と合わせて定員の95％、３期では自己推薦で定員の５％としている。入学対象者、入学者選抜方法については、１期では中学校長により推薦された岡山県内在住の中学卒業予定者を対象に、中学校長推薦書、面接、作文、調査書で選考される。２期では岡山県内在住の中学卒業予定者、中学卒業者を対象に、自己推薦書、面接（自己PR）、作文、調査書、３期では岡山県在住の中学卒業者を対象に、先と同様の方法で選考される。また、夜間部では就労者、就労予定者を優先し、不登校生徒の受け入れにも配慮している。

b　中高一貫教育課程

b１　特色ある教育目標、方針

各教科、科目の主体的な選択を重視する中高一貫の教育課程を通して、ゆとりと意欲的な学校生活を実現し、個性や創造性の伸長を目標にしている。中等部では、特に基礎確立期とし、多様な選択教科、習熟度学習を教育課程に用意し、主体的な学習態度、自他を尊重する教育を重視し、充実発展期の高等部への接続を目標としている。高等部では、単位制総合学科の多様な教育課程から就学条件、個性に合った履修計画を立て、「自分で創る高校生活」の充実を図り、個性伸長を支援し、自己実現を支援することを目標にしている。

b２　中等部

b２－１　シティキャンパス構想

岡山市立岡山後楽館中・高等学校は岡山市内のカルチャーゾーンに位置し、岡山市内全域を探求活動の場として位置付け街を学びの場とする「シティキャンパス」構想を打ち出し、カリキュラムの中で具体的に展開している。総合学習である自由研究の時間に放送局、商店街、老人養護施設、美術館、歴史博物館、音楽施設、国際交流施設等を学びの場として活用し自己の研究課題の解決に向けて、市民の方と共に学習活動を展開している。また、高等部では、必須科目の「産業社会と人間」の講師として市民講師を採用したり、市民を対象とした公開講座に高等部の学生が共に学ぶ機会が設けられている。

b２－２　選択学習

高等部での主体的な学習につながるように中等部では自己選択、自己決定の機会を多く設定している。中等部では選択教科の時間は各学年週１回で、活動時間は１年生は45分、２年生は100分としている。前期、後期ごとに学びたい教科（講座）を選択することになっている。教科は可能な限

り多くの教科（講座）を開設し、特色として、外国語は英語以外に「ハングル」、「中国語」の講座を開設したり、教科横断的な学習も試みている。

b2−3　習熟度別学習

基礎・基本の定着と、高等部での個に応じた発展的な学習を目標に、習熟度別学習を中等部で実施している。英語と数学で2つの学習コースを開設し、原則としては単元ごとに学習理解度が遅い生徒に適した学習コース、学習理解度が速い生徒に適した学習コースを用意し、学習内容によっては2つのコースが合流することもある。また、生徒のコース選択にあたり、教員が適切な指導をするが、最終的な判断は生徒がすることになっている。現在（平成12年度）の習熟度別の授業時数は、数学では中学1、2年の全ての時間で、英語は第2学年で会話の授業を除いた全ての授業で実施されている。

b3　高等部

岡山後楽館高等学校は、主体的な教科・科目選択を重視する教育を行なうことにより、生徒のゆとりと意欲的な学校生活を実現し、豊かな人間性や自立心をはぐくむ教育を目指している。そのための設置形態として、高等部は1学年4クラス規模の「定時制課程（3部制）」「単位制」「総合学科」をとっている。ここではこの3つの特徴を中心に報告する。

b3−1　3部制の定時制課程

岡山後楽館高等学校は、午前部・午後部・夜間部をもつ「3部制」の定時制課程で、生徒はこの中のいずれか一つの部に在籍し、出願時に希望する部を選ぶことになっている。しかし、所属の如何にかかわらず、生徒の就学条件や希望に応じてどの部の授業でも選択することができる。ただし、履修する時間数のうち過半数は在籍する部で開設される授業を履修しなければならない。クラス数の内訳は、午前部2クラス、午後部1クラス、夜間部1クラスで、各クラスとも2人担任制により、1人の担任が生徒20人を担当している。学期区分は前期、後期の2学期制である。

b3−2　単位制

高等部は、学年による教育課程の区分を設けずに、定められた単位数を修得すると卒業できる単位制を採用している。このため生徒は入学後担任から履修指導を受けながら、自分の興味・関心、進路目標、就学条件等に応じて卒業までの履修計画を自分で立て、時間割はその履修計画に基づき学期ごとに作成している（「自分で創った時間割」）。1週間に履修可能な教科・科目の時間数の上限は32単位時間で、履修する時間数のうち、過半数は在籍する部で開設される授業を履修しなければならない。

卒業に必要な単位数は、通算74単位以上である。修業年限は3年以上8年以下で、原則として各学期（2期制）に5単位以上の単位を修得することが必要である。授業は原則として、100分授業で行なわれている。

b3−3　総合学科（系列）

高等部は単位制による総合学科であるため、必履修科目（国語Ⅰや数学Ⅰなど）、原則履修科目（“産業社会と人間”など）、自由選択科目の他に「総合選択科目」がある。この総合選択科目の中に科目群として次の4つの「系列」が設けられ、どの系列の科目でも選択して履修することができるようになっている。

<table>
<tr><th>科　目</th><th>系　列</th><th>系</th><th colspan="2"></th><th>午前部</th><th>午後部</th><th>夜間部</th></tr>
<tr><td rowspan="7">総合選択科目</td><td rowspan="2">国際文化</td><td>語学文化</td><td colspan="2">リーディング、中国語、スペイン語 等</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>国際理解</td><td colspan="2">古典、外国事情、岡山の文学 等</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">情報科学</td><td>自然科学</td><td colspan="2">数学、物理、自然と科学 等</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>情報ビジネス</td><td colspan="2">流通経済、文書処理、簿記 等</td><td></td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>健康福祉</td><td colspan="3">社会福祉基礎、基礎介護 等</td><td>○</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">工業技術</td><td>工　芸</td><td rowspan="2">工業基礎科目
「CAD」
「建築史」等</td><td>デッサン、工芸 等</td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>建　築</td><td>製図基礎 等</td><td></td><td></td><td>○</td></tr>
<tr><td>自由選択科目</td><td colspan="7">「野外活動」「郷土料理」「岡山の美術」「ボランティア活動」 等</td></tr>
<tr><td>原則履修科目</td><td colspan="7">「産業社会と人間」「情報基礎」「課題研究」の計６単位</td></tr>
<tr><td>必履修科目</td><td colspan="7">「国語Ⅰ」「数学Ⅰ」「体育」「家庭一般」など35単位</td></tr>
</table>

b３－４　その他（市民公開講座、特色ある講師）

地域社会に開かれた学校として、中学生のみならず高校生も全ての教育活動の中で、学校周辺の自然環境や教育施設、福祉施設、文化施設等を学習フィールドとする校外学習や、経験豊富な市民との交流などを通して社会性や人間性をはぐくむシティキャンパス構想が大きな特色となっているが、特に高等部では、聴講を希望する市民を対象にした公開講座も開設している。

また「特色ある講師」を民間や地域社会から幅広く依頼して魅力ある講座を開設している。例えば中国の洛陽市から中国語、大韓民国からハングル、アメリカから英語の講師を招聘し、外国語学習を通じて国際理解教育を推進している。

c　生活指導

「選択と自己責任」の考え方に基づき、１）校則は社会のルールやマナー（社会のルールやマナーに沿った良識ある行動を求める）、２）制服はなく服装は自由（学習する場にふさわしい、清潔で落ち着いたものを望む）、３）授業の始業・終業を告げるチャイムなしを基本方針として指導している。

また、様々な理由で学校へ通うことができなくなった生徒に対し、何年か後に再び学ぶ意志と環境が揃えば再度学校へ受け入れる再入学の制度を用意している。

d　情報化への対応

生徒は自分についての情報（出欠や成績等）や先生からのメール（連絡やメッセージ）を校内に設置された「ウィンドウズロボ」と呼ばれる端末からチェックすることができ、教員と生徒とのコミュニケーション促進ツールとなっている。また、こうした情報化への対応は、工業科の実習教諭が専属で行なっている。

３　まとめと展望　―教育課程を中心に―

岡山市立岡山後楽館中・高等学校の併設型中高一貫校としての教育課程の特色を概観してきた。

この教育課程の大きな特色は、社会の多様化が進む中、従来の中学、高等学校制度・枠組みでは伸ばせなかった多様な生徒の個性や能力を引き出す機会や選択の機会を与える教育課程の創造にあると思う。従来の学校教育課程の１つの問題は、多様な学習者の学びの要求や視点に応える柔軟性を欠いた、言い換えれば、硬直した教育課程にある。つまり、学ぶ側から見れば、学習者の多様な学習意欲に対応できない、学習者の試行錯誤に柔軟に対応できない、学習者の自主的な選択の要求に対応できない教育課程であると言える。この観点から見ると、中等部では高等部での個に応じた発展的な学習に対応できるように、習熟度別学習によるの基礎・基本の充実と、選択学習、自由研究による個性探求の機会、学習の動機付けを促進する機会を与え個性や能力を引き出せる教育課程が用意されていると言える。また、シティキャンパス構想にみられるように、地域との学びの連携を軸に、実習、体験的な学習を可能にする教育課程でもある。また、学校生活面でも、中学から高校までの幅広い異年齢生徒による学校行事が行なわれたり、主体的に行動する力を育むことを目標にした生徒指導の方針が特色である。岡山後楽館中・高等学校の併設型中高一貫校としての教育課程は、学習者の自主性、自己決定を柱に、学習者の多様な生活条件、多様な学習環境に合った学びを実現し、「意欲的に自ら学び・考える力」を育む教育課程であると言える。

本校も平成12年度より、名古屋大学教育学部附属併設型中学校・高等学校としてスタートした。創設計画により基本理念をまとめると、１）「ゆとり」の活用による６年一貫の「心の教育」の内容強化、２）柔軟で長期に亙る選択的活動を活かした多様な「個性的自立」の実現、３）６年間を通じての「総合的学習」を中核とする「体験的学習」の充実、４）個別指導による丁寧な「少人数教育」の徹底、特に高等学校からの入学者への配慮、５）「より高度な学習環境」たる大学・学部との研究・教育両面における連携の強化とある。併設型を新しい特色とし、中高一貫６カ年の発達区分として１－２－２－１制の導入をした。具体的には、「個性を探る」から「個性を伸ばす」という一貫教育を目的として、６カ年を入門基礎期、個性探究期、専門基礎期、個性伸長期の４区分に分けた。

個性を探る			個性を伸ばす		
入門基礎期	個性探究期		専門基礎期		個性伸長期
中学一年	中学２年	中学３年	高校１年	高校２年	高校３年

岡山市立岡山後楽館中・高等学校と本校との基本的な学校の枠組の違いは、高等部の課程である。３部制の単位制総合学科に対し、本校は全日制普通科である。高等部での学習目標、進路目標が基本的に大きく異なっている。しかしながら、岡山後楽館中・高等学校の教育課程の最大の特色である、従来の中学、高等学校制度・枠組みでは伸ばせなかった多様な生徒の個性や能力を引き出す機会や選択の機会を与える教育課程の創造という観点から本校の教育課程の編成に学ぶべき点が多い。

具体的な今後の課題としては、中高の接続時に併設中学出身生徒と新たに高校から入学する生徒との人間関係や生活面での融合、学習面での充実を図る教育課程の編成である。すなわち人間関係や生活面での融合では、「心の教育」を充実させる高校でのソーシャルスキルの授業のあり方、少人数指導実現の為に二人担任制の導入の検討、学習面では、１－２－２－１制の専門基礎期（高１・高２）の少人数教育による各教科の基礎・基本の充実である。すなわち、各教科が21世紀を生き抜

く教養や要求される学力の育成を目標に、教科としてのミニマム・エッセンシャルを精選し、指導方も学習者の自己学習力を高める指導方法の開発を視野に入れた基礎・基本充実の教育課程の創造が必要である。

また、生徒の多様な進路要求に対応し必須と選択のバランスをとりながら、理系、文系、芸術系、体育系などに対応した幅広い選択科目の設置をどのように展開していくのか、また個性伸張期（高3）でも、生徒の進路目標に応じた柔軟な選択科目のあり方や充実が必要である。個性伸張期（高3）における「単位制」については、一昨年度のワーキンググループの答申にも盛り込まれており、また、学校週五日制が始まる来年度からは第7限の授業を本格的に検討する必要もあり、今後も検討する余地がある。また「総合学科」については、その制度そのものの導入は考えられないが、生徒の興味・関心を喚起する授業を用意して行こうとする各科目の精神や手法は、授業づくりの参考となる。情報化への取り組みについては、本校の環境も整備されつつあるが、その潜在的な可能性を活かすまでにはかなりの努力と整備が必要である。後楽館では、専属の実習教諭が配置され、高性能のコンピュータも導入されている。本校もこうした人的環境やハード面、ソフト面の環境の整備が急務であり、その上で、教員への情報教育に関する情報提供や提案、研修などを組織化していく必要がある。

各教科の必須としての基礎・基本の力を充実させる一方で、多様な生徒の個性や能力を引き出す機会や選択の機会を与えながら「意欲的に自ら学び・考える力」を育むことができる併設型中・高一貫の教育課程の開発が本校に求められている。